

# 2020大会金メダル! テコンドー選手 の声

に迫っている中、公式練習会場がある  
一選手たちにとっても今が正念場。  
られています。  
の壁に、選手たちはどう立ち向かうのか。  
た。  
推進課 ☎5722-9361

## プロフィール

【生年月日】 1993年10月31日  
【年 齢】 25歳  
【身長・体重】 180cm / 73kg  
【所属協会】 東京都協会  
【所属先】 TEAM DAITO  
(株)ダイテックス

## 主な成績

2019年 2月 第12回全日本テコンドー選手権大会(パラ・キョルギの部)+61kg級 優勝  
第8回世界パラテコンドー選手権大会 K44-75kg級 3位



く どう しゅん す け  
工藤 俊介 選手

## 失意の中で出会ったテコンドー

就職した半年後に職場の事故で左手をなくしてしまい、失意の中で出会ったのがパラテコンドーです。入院中、競技者が少ない競技として紹介されているのを見て、興味を持ちました。退院後に軽い気持ちで近くの道場で体験会に参加してみたら、障害を気にすることなく体が動きました。その場の流れでテコンドーを始めた感じです。

中学生の時は剣道部に所属していたのですが、痛いのが嫌いでテニスに転向。なのに、今はテコンドーで蹴られて、また痛い思いをしています(笑)。でも、集中してしまえば痛いのは全く気になりません。

蹴りは片足立ちになるわけですが、健常者と同じ感覚です。バランスを崩すのは、着替えの時くらいですね(笑)。

## 世界初の金メダルを

パラテコンドーは頭部への蹴りがありません。勝つためには、一発逆転を狙うより、コツコツとポイントを重ねることが重要です。僕は、練習量と体力だけは負けないという自信があるので、その自信を持って、試合に挑んでいます。

今の目標は、丞くん(本間政丞選手)に勝つこと。簡単な相手でも、手も足も出ないです。何回やっても勝てる気がしない(笑)。誰にも言ったことはないですが、いずれは勝ちたい。そして東京2020パラリンピックに出場して、世界初のパラテコンドー金メダルを取りたいです。

## 目黒区のみなさんへ

テコンドーを始めて僕の人生は変わりました。病室でテコンドーに出会ったことは「運命」だったと思います。世界初の金メダルでみなさんに恩返ししたいです。応援よろしくお願いします。

## 目黒区ゆかりの選手

### ほし の ゆう す け 星野 佑介 選手



現在高校3年生の星野佑介選手は、世界ランク1位のモンゴル代表ガンバット選手とも互角の戦いを繰り広げるなどメキメキと頭角を現しているパラテコンドー界期待の新星です。小学校時代の思い出やテコンドーをはじめたきっかけ、パラリンピックへの意気込みを聞きました。

## プロフィール

【生年月日】 2001年8月9日 【年 齢】 17歳  
【身長・体重】 174cm / 61kg 【所属協会】 神奈川県協会  
【所属先】 東京都市大学等々力高等学校

## 主な成績

2019年 アフリカパラテコンドー選手権大会K44 M -75kg級 5位  
2018年 キムウンヨンカップパラテコンドー選手権大会K44 M -61kg級 3位

## 運動経験ゼロのゲーマーがテコンドーに夢中になるまで

中学3年生の時、東京都のパラリンピアン発掘プログラムに参加した際に、テコンドー協会関係者に「本格的にやってみないか」と声をかけられたのがテコンドーを始めたきっかけです。華麗な足技に憧れて道場に通うようになったのですが、いきなりハードな練習が待ち受けていました。それまでの僕は学校から帰ればゲームばかりしていて運動とは無縁の生活。ぽっちゃり体型だったのに、最初の1か月で8キロも痩せました(笑)。それでも続けたのは、東京2020パラリンピックに出てみたいという夢を抱いたからです。

とはいえ練習が辛くて、テコンドーを止めようと思った時期もありました。そんな時に道場に入って来たのが現在パラテコンドーの有力選手となっている阿渡健太選手です。阿渡選手が猛烈なスピードで強くなるのを目の当たりにして、危機感のようなものが芽生え、止めたい気持ちは吹き飛びました。阿渡選手が兄のように優しく接してくれたことも僕のモチベーションアップにつながりました。

## 頭の中を真っ白にして、今あるチャンスを生かしたい

テコンドーはポイント制なので、頭の中で攻撃と防御を組み立てながら対戦することが求められます。でも、僕の場合は何も考えないで頭が真っ白になった状態で闘うと体が一番良く相手に反応すると最近気付きました。今後は「体に任せるから勝手に動け」という作戦で試合に臨み、来年1月の東京2020大会の選考会も絶対に勝つつもりです。

僕は現在高校3年生で東京2020大会を目指す一方、受験の準備も進めています。大学ではスポーツを科学的な視点で学んでみたいと思っています。もちろんテコンドーも継続し、パラリンピックに何度も出場できるレジェンドのような選手になれたらいいですね。

テコンドーと出会うまではゲームばかりしていて、人と話すのは苦手でしたが、テコンドーを始めてから選手同士やコーチ、関係機関の方々と話す機会が増え、前より明るくなったと親や友達にいわれます。自分を変えてくれたテコンドーに感謝し、今あるこのチャンスを生かしていきたいです。

## 目黒区のみなさんへ

中央体育館がテコンドーの練習会場になったので、それを無駄にしないように僕たち選手も頑張ります。そして目黒区の皆さんにもっとテコンドーやパラテコンドーを知ってもらい、応援してくれれば嬉しいです。

## 烏森小学校時代の思い出

一番印象に残っているのは、自然宿泊体験教室で興津自然学園(千葉県勝浦市)に行ったこと。友だちと同じ部屋に泊まることもワクワクだったし、遊んだりケンカしたり楽しい思い出がいっぱいです。目黒川の桜がきれいだったことも印象に残っています。



烏森小学校時代の星野選手

